

一般社団法人ロボカップジュニア・ジャパン
2021年度第5回理事会議事録

1. 日 時 : 2021年12月12日(日) 10:00~12:10
2. 場 所 : 大阪市北区豊崎3-20-1 インターグループビル ZoomにてWeb会議
3. 出席者
 - (1) 出席者 9名(うち委任状提出者1名)
大橋健、水野勝教、今井俊二、中島晃芳、島谷太、森重智年、松山森仁、政岡恵太郎、田中宏明(監事)
 - 欠席者 2名 野村泰朗、勝村航太
 - (2) 理事以外出席者 4名
前田正久(事務局長)、浅沼まり(事務局)、休場万喜(事務局)
藤井晴基(CoSpace技術委員長)
4. 議 事
 1. 2022名古屋大会について
 2. RCAP2021Aichi報告
 3. 議事録署名人の選定
 4. その他
5. 資 料
 - 資料1 サッカースコアリングシステムについて
 - 資料2 ネット配信見積りについて
 - 資料3 レスキュー運営提案

6. 議事概要

(1) 議長の選出

①大橋代表理事が議長に選出され開会を宣言し、本総会は、定款第18条の規定を満足しており、成立していることを報告した。

(2) 2022名古屋大会について

①水野専務理事より、各競技担当理事に会場レイアウトについて意見を求めた。

・水野専務理事より、サッカーの図案に対し、フィールドにLANケーブルを配置するプランになっており、新たなスコアリングシステムでタブレットを使用する案が出ているが、プランに変更はあるか。また、レスキューがスコアリングシステムを導入した初年度は、トラブルがあったのではとの質問に対し、政岡理事より、Wi-Fiを使用するが有線LANも何本か必要であること、また業務用のルーターとWi-Fiを準備するので大丈夫ではとの回答がなされた。水野専務理事より、実行委員会の予算次第ではあるが、詳細については松山氏と政岡氏で名古屋市と協議するよう確認がなされた。また、レスキューとサッカーのスコアリングシステムで使用するタブレットについては、ダイセン電子工業からiPadを20~25台、東海ブロック大会で使用したタブレット10台を貸与頂けることを確認した。

・中島理事より、OnStageから会場レイアウトについて、観客と競技者の導線を考慮し、レイアウトの変更案が出されているとの報告がなされた。これに対し松山理事より、変更案ではサッカーコートとステージが隣接しており、音の問題が懸念されるとの意見がなされた。中島理事より、担当者との協議するとの回答がなされた。

・松山理事より、感染対策用の消毒アルコール類などは、各リーグで必要数を要望するののかとの問いに対し、水野専務理事より全体で数を確保頂くよう要望することとなった。

②CoSpace技術委員長の藤井氏より、今後のCoSpaceの運営について提案がなされた。CoSpaceは世界大会の公式リーグではなくなるが、RCAPでは引続き実施されると予想しているので、WLでも引続き競技を実施し、上位チームはRCAPに推薦したい。また、プライマリーを設け、小学生の競技者を取り入れたいとの説明がなされ、詳細は文章にて後日報告することとなった。水野専務理事より、既存のCoSpaceに加え自動運転(Autonomous Driving)競技も実施するののかとの問いに対し、自動運転の実施も検討しており、積極的に活動してくれているメンバーがいるとの回答がなされた。

・森重理事より、資料3に基づきレスキュー運営の提案がなされた。今年9月30日のRoboCup Federationからの通達により、Webots-Erebus platformがレスキューシミュレーションの公式競技になったことを受け、先の理事会でも提案したWebotsのワールドリーグ設置と2022年名古屋大会での競技実施に向け、1月中旬頃までに全国規模での参加者募集、ルール発表、説明会実施を検討している旨説明がなされ、意見を求めた。水野専務理事より、以前からの議論で新競技をジャパンオープンで実施する場合、最低何チーム集まれば実施するのかを事前に理事会で決定する必要があるとの意見がなされた。大橋代表理事より、予算を固める時期に入っており、新たなリーグのための予算や、全国規模でチームを募集するのは時間的に厳しいのではないかと。2022年名古屋大会ではデモンストレーションとして実施するのが、現実的ではないかとの意見がなされた。森重理事より、RCA Pの大会参加者の中には、新しいシミュレーション競技に興味を持つチームがあった。予算面では、コンピューターとモニターがあれば出来るので、費用はかからないとの説明がなされた。藤井氏より、オンラインであれば競技に参加したい希望者もいるため、オンサイトとオンラインの両方で実施を希望しており、オンラインの場合は、Zoomの費用が必要との説明がなされた。水野専務理事より、名古屋大会では実機は使用せず、シミュレーションのみの実施か。また、ハイブリットで実施した場合、会場レイアウトに変更はないかとの質問がなされた。藤井氏より、実機は使わずシミュレーションのみで行い、CoSpaceと同じエリアで実施可能であるが、再度図案を確認するとの回答がなされた。

・水野専務理事より、CoSpaceの西ブロック・東ブロック大会開催の有無について、質問がなされた。藤井氏より、例年までのブロック大会は開催せず、ビデオ等の書類審査で順位を決め、推薦チームを決定するとの説明がなされた。

・松山理事より、シミュレーションの新競技をデモで行った場合、順位付けはするのか、その場合タイの世界大会へ推薦するかとの質問がなされた。前田事務局長より、エントリーが3チーム以下であった場合はデモ競技とし、3チーム以上であれば公式競技としてはどうか、また、デモ・公式に関わらず、優秀なチームであれば世界大会へ推薦してはどうかとの意見がなされた。水野専務理事より、CoSpaceが公式競技に導入された時は、最初はデモンストレーションを実施し、書類審査を経て世界大会へ推薦したことがあり、デモであっても世界大会へ推薦する可能性はあるとの意見がなされた。

③今井理事より、資料2に基づき、ネット配信について説明がなされた。前回オンライン大会でもテクニカルスポンサーとして協力頂いたPixel Engineに見積りを出してもらった。名古屋で別の会社で見積りを出してもらっているのであれば比較検討してもらい、Pixelに決定した場合は、昨年と同様に大会のテクニカルスポンサーとして表記して欲しいとの要望がなされた。全競技を撮影し、ライブ映像はRCJJの公式YouTubeで配信。大橋代表理事より、シミュレーションがオンラインで実施された場合、Zoomでの録画になりそうだが、見積りに影響はないかとの質問に対し、Pixelと要相談との回答がなされた。水野専務理事より、RCAPの会場で撮影を行った際、フィールドのすぐ横にカメラがあるとクレームがあったとの意見に対し、政岡理事より技術委員とも確認し、Pixelとカメラ位置は相談可能との回答がなされた。

④政岡理事より、サッカーのスコアリングシステム導入について説明がなされた。各フィールドにモニターとタブレットを設置するにあたり、タブレットはダイセンから貸与頂き、モニターは業者からレンタルすると1日1万円する場合もあるため、政岡氏のところで中古のモニターを購入し、1日2,000~3,000円/台でレンタルすれば、予算が抑えられるとの提案がなされた。大橋代表理事より、輸送費、保管料はどうするのか。松山理事より、持続的運営を考えると個人の負担がたいへん大きくなるため、業者へ依頼してはどうか、また人件費が見積りに含まれていないのではとの質問がなされた。これに対し政岡理事は、予算が無い中で、スコアリングシステムを導入するための策であり、予算がつけられるようになれば、永続的にボランティアするつもりはないとの回答がなされた。大橋代表理事より、政岡理事の提案でお願いすることでどうかとの意見がなされ、承認がなされた。

(3) RCAP2021Aichi報告

①水野専務理事より、RCAP2021あいちのジュニア参加チーム数の報告がなされ、オンサイト登録チーム56チーム(147人)、うちRCJJ・ブロック推薦チーム45チーム(115名)がオンサイトで、6チーム(12人)がオンラインで参加し、来場者約12,000人であった。日本で初めて開催されたRCAPであったが、これまで必ずしもジャパンオープンの結果で推薦してきた訳ではなく、渡航注意が出た国への推薦は見送ってきた。RCAPの運営窓口は日本委員会であり、ジュニアの直接窓口はなく、RCA PはジュニアのOC/TC組織が明確でないため、今後の大会運営は見通せないと感じている。大橋代表理事より、推薦枠は割り当てられているものの、今後も可能な範囲での協力になると考えていると

の意見がなされ、次回開催国は韓国になるとの報告がなされた。RCAPに参加された理事に対し感想を求めた。

- ・森重理事より、選手としては国際大会に出場しているという意識はあり、レスキューは参加者との書類等のコミュニケーションは英語で行い、プレゼンも半分のチームが英語で実施した。
- ・藤井氏より、過去のモスクワ大会、天津大会は規模の大きな大会だった。生徒にとっては、エントリーから全て英語で行い、いい経験になったと思う。小学生の参加チームが多かったので、プライマリーのチームが世界に挑戦できるいい機会だと思う。
- ・政岡理事より、事前準備ができていたので、当日の大会運営に関しては、ジュニアは比較的スムーズに実施できた。改善点は多々あるが、世界基準の評価方法や、英語でのプレゼンなど、試合以外でも評価される点があり参加者からの評価は高かった。

(4) その他

・森重理事より、RCAPに出場したチームが日本リーグに出場できるかとの問合せがあったので、競技担当者らと協議し、過去のジャパンオープンへの参加歴だけで、それ以外の大会への参加歴は問わないと回答した旨報告がなされた。大橋代表理事より、WLへ参加できない理由、お勧めできない理由が何かあるかとの質問がなされた。中島理事より、OnStageの場合、WLとNLの違いはスコア方法とOTDだけで、WL/NLの境は曖昧に感じるとの意見がなされた。これに対し水野専務理事より、OnStageの在り方として、WL/NLで分けるのではなくPreliminary/Secondaryで分けてはどうかとの意見がなされた。政岡理事より、サッカー技術委員会でも同様の意見が出ており、2023年よりNLのコートサイズがWLコートと統一されることを受け、WL/NLの違いが薄れていくとの意見がある。大橋代表理事より、世界大会にあわせて年齢制限で整備していくのが望ましく、2023年からどのようにするのか、理事会で3月までに議論を終結させる方向で考えてはどうかとの意見がなされた。

・中島理事より、RCAPにエントリーした参加者でロボットの製作作業を担当した生徒が、当日参加できなかった場合でも、参加証を発行してもらうことはできないかとの質問がなされた。事務局より、ジャパンオープンの場合は、参加料の振込みがあれば、やむなく当日欠席した場合でも参加証を発行しているとの意見がなされた。大橋代表理事より、やむを得ない理由があった場合は、愛知県の事務局に問い合わせるとの回答がなされた。

・水野専務理事より、ロボカップ日本委員会が制作を進めているロボカップ入門書シリーズについて、ジュニアとしては参加しないことになったとの説明がなされた。政岡理事より、ジュニア独自で入門書を作成してはどうかとの提案に対し、大橋代表理事より、ジュニアが独自で書籍を作成することは問題なく、日本委員会へは経緯を代表理事から説明することとなった。今後、政岡理事を中心とした執筆グループが書籍を作成することで確認がなされた。

・大橋代表理事より、名古屋大会がオンサイトで開催された場合、高橋先生のフェロー授与式をすることで確認がなされた。水野専務理事より、ホームページに高橋先生のフェロー授与の掲載をするため、前田事務局長が執筆することで確認がなされた。今井理事より、松原先生のフェロー推薦がなされ、大橋代表理事より打診することで確認がなされた。

(5) 議事録署名人の選任

本日の議事録署名人として、水野勝教氏、及び松山森仁氏にお願いすることとなった。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2021年12月12日

議 長 大橋 健

議事録署名人 水野 勝教

同 松山 森仁

